

「秋のオーロラ (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

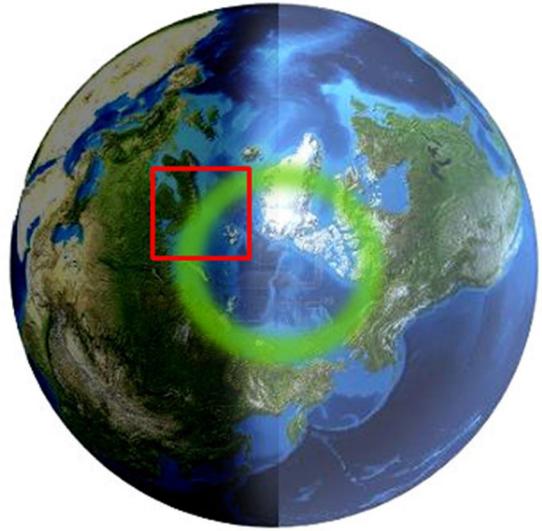
オーロラカメラを設置してある、ノルボッテン州ボルユス村は、北極圏の南端に位置する。夏至を挟んで数日間は白夜になるが、秋になると日が沈む時間が増え、夜間はオーロラが見えるようになる。



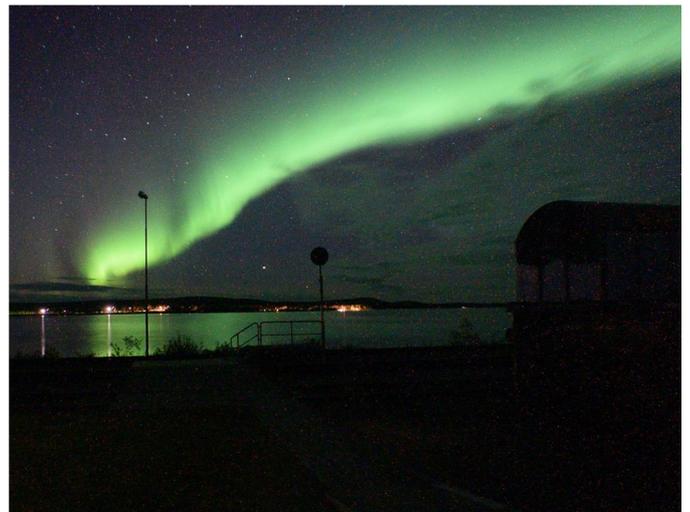
上写真はオーロラカメラがとらえた、19時ごろの日没の写真だ。スウェーデンでは現在サマータイムなので、日本との時差は7時間である。私は、夏にこの日没を何度も見たが、ゆっくり沈む夕日は、実に美しい。



同じ日に現れたオーロラ。これは西側(線路側)のカメラがとらえたものである。オーロラの出始めは、このように、決まって虹のような形状である。これは「オーロラ・アーク」と呼ばれている。



実際の「オーロラ・オーバル」(極光楕円)を、北極上空から見ると、上の図のようになる。これを地上から見たものが、「オーロラ・ディスプレイ」(オーロラの実体)ということになる。しかし、地上の観察者からは、地平線が邪魔をして、オーロラ・オーバルのごく一部分しか見えない。オーロラの出始めは、磁北極に近い北のほうからオーロラが南下してくるので、スカンジナビア半島北部では、図の□あたりの弧が見えている、ということになる。



オーロラの活動が激しくなると、オーロラアークは変幻自在に形状を変化させ、カーテン状に成長する。これは「バンド・オーロラ」と呼ばれている。更に活動度が増すと、オーロラ・オーバルが南下して、オーロラが全天を覆うようになる。